理系男子エンジニア M さん　学校司書へ転身ストーリー

2023 年度　**司書講習・学校司書養成講座**を同時受講で修了　受講当時 60 歳

Q１：司書講習と学校司書養成講座を受講しようと思ったきっかけは何ですか？

A：会社を定年退職する前に、人に薦められて『闘う図書館』（豊田泰子著、筑摩書房）という本を読んだのですが、この本で図書館の位置づけとか、司書という職業に対する見方が変わりました。単なる図書貸し出し業務だけではなく、その地域の情報サービス提供機関の中核を担う立ち位置にいるのが、本来の図書館であると理解しました。改めて司書という仕事に興味を持ったのは、この本を読んでからです。

※『闘う図書館』（豊田泰子著、筑摩書房）　紀伊国屋書店　https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784480017581

一方、会社員時代はエンジニアとして設計図面、技術資料、学術論文、特許といった様々な情報に接してきましたが、本当に必要な図書や図面や情報を効果的に得る手法、また、その情報を関係者と共有しながら継続的に活用していく上手いやり方がわからないまま過ごしてきました。
常日頃から、こういう情報へのアクセス、整理、保管・維持等に関して、体系的に学ばないといけないと、漠然と感じていました。

そこで、定年後に自分が次にやってみたいことは何か？と考えたときに、日頃から考えていたモヤモヤを解消すべく、また、どうせ学ぶなら職業としても活かせる資格を取りたいと考えて司書講習を受講してみようと思い立った次第です。併せて学校司書も同時に受講して一通り学んでいきたいと考えました。

Q２：受講を桃大にされた決め手は何ですか？

A：１つには、文部科学省の司書講習実施大学一覧に掲載されていて、関西地区で唯一の開講機関であったこと。そして、実際に**桃山学院大学の募集要項**や**カリキュラム**の説明を読んだとき、非常に分かり易く丁寧であったこと、です。自宅からの通学も可能な範囲であったことも大きいです。

Q３：実際に受講してみてどうでしたか？

A：今まで Zoom や Google Classroom を使ったことがなかったので、リモートでの講義、宿題対応がどうなるか不安はありましたが、スタッフの方々が、とても丁寧な説明書を配布してもらいましたし、当方の質問へも応対して頂けたので、受講環境の整備は、スムースに進みました。実際の講義でも、こちらの細かい質問や疑問に対しても、講師の皆さんは真摯に応えて頂けたことに加えて、各講義の終了後に記載するコメントや質問にも一つ一つ丁寧に回答、解説いただけたことが、とても良かったです。

Q４：勉強するのにしんどかったですか？

A：受講内容自体にしんどい思いをしたことはなかったです。グループワークや図書館を使った実習等もあって楽しく受講できたと思います。それよりも、今まで読んできた本に偏りがあったせいか、講義の中で、かなりの数の知らない本、未読の本が出てきたりして、やはり司書になるには、読書の幅を広げないといけないと痛感しました。また、8 月の暑い時期での、片道 3 時間弱の通学と、しかも 1 日に同じ講義（座学）を 5 コマ連続して実施の時は、これは疲れました。

Q５：しんどい時どうやって乗り越えましたか？

A：私の趣味の 1 つに史跡や神社巡りがあるのですが、しんどい時は勉強から離れて、大学近在の史跡や由緒ある神社に立ち寄ったりして気分転換を図っていました。大阪の和泉方面には、関空の利用ぐらいで、ほとんど来たことがなかったので、良い機会になりました。
また長い通学時間を活用して、超長編小説に挑戦したりもしました。

Q６：受講して良かったことは何ですか？

A：ある講師の方が、「司書は物知り博士になる必要はなくて、適切な調べ方を知っていることが肝要である。その調べ方の抽斗の中に、“一次資料の調査”の重要性を理解し、実際に調査できる能力、スキルを身につけることが大事である。」とおっしゃっていましたが、その適切な調べ方の一端を知れたこと、また抽斗の拡げ方について教わったことが一番良かったと感じています。これは、司書という仕事に留まらず、普段の生活の中でも十分に活かせる話だと思います。
その他、現役の学生から高齢者まで年齢層も幅広い中で、様々なキャリアを積んだ方々が集まった講習でもあり、いろいろな方の意見、感想を聞くことができたのも良かったと思います。

Q７：就職活動で苦労したことやアピールしたことがあれば教えてください

A：まず、年齢的に正規職員への応募はないことは分かっていましたが、そもそも募集が少ないこと、そして経験者が率先して採用される状況が苦労した点です。近隣の公共図書館では短期アルバイトの募集しかなく、大学や私立高校へも応募してみました。ただ、募集要項では未経験者可となっていても、実際に照会してみると、実務経験者が来れば、そちらが優先です、と言われたりもしました。司書資格を取れば就活もスムースに行くとは思っていませんでしたが、欠員が出ないと募集も無いので、就職は狭き門であることは間違いないと思います。それでも１年を通じて求人があるので、諦めないでこまめに探すことも大事かと思います。
結局、最初に応募した市内の小中学校向け学校司書に合格したのですが、その時の面接では自分の強みである40年近い社会人としてのキャリアをアピールしました。文系女子が圧倒的に多い司書職の中で、価値観の多様性の点から理系男子の重要性を訴えたことが良かったのではないかと思っています。

Q８：今のお仕事ではどのような業務をされていますか？

A：学校司書として、市内の中学校２校を受け持っていて、隔日でそれぞれの学校に出勤しています。通常の図書貸出・返却業務に加えて、購入すべき図書の選書や発注リストの作成、図書原簿管理、納本処理と排架、発注先によっては図書の装備、除籍図書の選定と廃棄処分、文化委員会（図書委員）と一緒にイベントの開催や読書啓蒙活動を行ったりしています。
図書館を使った授業もあり、その際には必要な図書や資料を公共図書館や、他の中学校の図書館から収集して整備したり、時には授業の中で生徒にちょっとしたアドバイスをしたりもしています。たまに生徒や教員から本のレファレンスを受けたりもします。
出金処理など、お金が直接関わるところは図書館担当の教員が対応されますが、それ以外の実務の大半は一任されている状況です。
よく学校司書は一人職場で寂しいといった言われ方がされますが、逆に一人で何でもできる環境なので、いろいろな経験が積めて楽しい職場だと思います

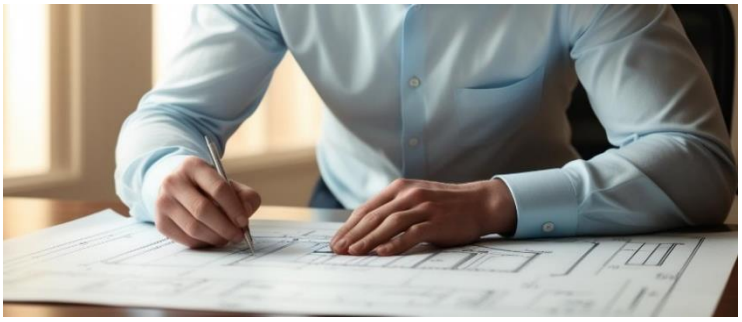
Q９：受講したことを業務で活かせていると感じることはありますか？

A：すべての業務で受講したことが活かされていると感じます。何か迷ったときは、いつも受講時のノートや教本を取り出して確認したりしています。例えば、どちらの中学校でも年間 500 冊ほど図書を購入するのですが、その約半分は図書館流通センター（TRC）へ発注し、残りが地元の書店になります。TRC 発注図書は装備済みで納本されますが、地元の書店からは未装備で届きますので、請求記号のラベルも自分で分類して貼って、目録を作成しないといけません。その時、分類・目録の授業・実習の成果が大変役に立っています。
また、読書感想文の課題図書について、生徒達にブックトークする際にも、本のアピールの仕方などで、講習・実習の成果が活かされていると感じました。

Q10：困った時、つまずいた時はどのように対処していますか？

A：学校が職場なので、何か困りごとがあれば、まずは図書館担当の教員に相談、必要に応じて教頭先生や校長先生に話をするケースもあります。場合によっては保健室の先生や管理人室、事務室に相談することもあります。特に生徒が絡む件であれば、教員にお任せするしかありません。学校司書は、学年・教科に縛られずフリーな立ち位置にいるので、いろいろな教職員と関係を持てる点が面白いと感じます。この辺り、公共図書館の司書とは動き方が違うのだろうと思います。

図書館の実務に関わる点であれば、これは図書館担当の教員でも不明な点があるので、司書講習時の教本や受講ノートを参考にしたり、市内小中学校の学校司書ネットワーク（Teams 活用）に相談を持ち掛けたりもしています。特に選書やレファレンス、授業支援のやり方等の業務に関することが多いです。もっと実務的な本の装備や修理に関しては、関係図書を購入して、自分なりに勉強を進めています。日常業務では、本の装備（ブッカー掛け等）や軽微な修繕（ページ貼りつけ等）の時間が比較的多いのですが、司書講習では、概論中心の授業で、そういう実科は無かったので、本の装備のような実習もあったら良かったようにも思います。



また、私が勤務している学校では図書館システムが配備されておらず、図書原簿や貸出処理も旧来の紙ベース、カード方式を使っています。生徒達が GIGA 端末を授業で使っているのに、図書館が紙の運用のままではどうかと考え、Visual-Basic を改めて勉強し、バーコードリーダーを使った貸出システムを試作して運用しています。このシステムは図書委員には好評で、「コンビニのレジみたいやな。」とか言いながら楽しそうに業務をこなしてくれています。ここは元エンジニアのキャリアが活かされた場面かなと感じています。

Q11：司書や学校司書にとって大切にしなければならないと感じることは何ですか？

A：どのような人にも読みたい本、必要な本があって、どんな本にも必ず読者がいるわけですから、特に学校図書館では、生徒や教職員の皆さんに、必要な本を届ける事、本と人を繋ぐ役割を担うことが大事だと考えています。
正直、図書館への来館者は多くないのですが、当番の図書委員が、率先して推し本の POP を作成して展示し、それを同級生や先輩・後輩が見て、読書の環が広がっていく光景を見ていると、学校司書があれこれ言うよりも、生徒同士がつながりあえる環境を整備していくことが必要かとも感じます。
貸出システムの試作・運用も、その１つです。ある一年生の生徒が昼休みに頻繁に図書館に来るのですが、めったに本は借りないので、どうして？と聞くと、「本も好きやけど、この場所がめっちゃ居心地ええねん。」と言ってくれたことも印象に残っています。とにかく図書館に来てもらって、良い雰囲気の中で好きな本を読んで、更には調べ物に挑戦するなど、図書館を目一杯活用してくれるように働きかけていくことが大切だと感じています。

Q12：これから受講を考えている方にメッセージをお願いします

A：少しでも司書、学校司書という仕事に興味を持たれたのであれば、ぜひ資格取得を目標に受講されることをお薦めします。人によっては講座内容が難しく感じられるかもしれませんが、講師や大学スタッフの方々が懇切丁寧に教えてくれますし、なにより周りの受講生の皆さんが、何かと助けてくれます。グループワークなどの授業を通して、いろいろなキャリアを持った世代の離れた方々と話をするだけでも楽しい時間を過ごせます。また、街の図書館に対する見方も変わってきて、普段の本の閲覧・貸出や、読み聞かせ等のイベント参加だけに留まらず、本来の図書館の使い方が分かってくるだけでも、仮に就職に直ぐにはつながらなくても、とても有意義な時間だと思います。

エクステンション・センターより
エンジニアから異業種である司書という新しい目標を持ち、片道３時間通学され、講義も演習も真摯に取り組みながら努力を重ねてこられた M さん。長年のキャリアも活かしながら学校司書の幅広い業務をこなされています。今後の活躍を応援しています！

※写真は全て生成 AI で作成したイメージ画像です。御本人や職場とは一切関係がありません